

## レジュメ

期間	所属先	実務内容
平成 20 年 4 月 ～ 平成 24 年 3 月	筑波大学 理工学群 物理学類	基礎物理学を学ぶ。4 年次の卒業研究では、宇宙理論に関する研究室に所属し、若い小質量銀河のスペクトルデータを解析する研究を行った。最小二乗法を用いる解析ツールはプログラミング言語 <b>fortran77</b> を用いて自作した。これらの作業は <b>windows</b> 上で <b>Cygwin</b> を用いて行った。
平成 24 年 4 月 ～ 平成 26 年 3 月	東北大学大学院 理学研究科 天文学専攻 修士課程	天文学と天文データ解析について学ぶ。銀河の観測データを用いた研究を行う研究室に所属し、ハワイにある大型望遠鏡 <b>Keck</b> で観測されたスペクトルデータの処理を行った。データ処理には、専用の <b>pipeline</b> を使用したが、正常に解析が行われなかったため、 <b>pipeline</b> の改正を行った。 <b>pipeline</b> のプログラミング言語は <b>IDL</b> である。処理したデータを解析する際に行った <b>Gaussian fitting</b> 等の解析には、自らプログラミング言語 <b>C++</b> , <b>python</b> , 天文データ解析ツール <b>IRAF</b> を用いて解析プログラムを作成し使用した。修士論文を執筆するにあたって、作図をする際には <b>python</b> の <b>matplotlib</b> を用いた。使用した OS は <b>Linux</b> の <b>Fedora</b> である。
平成 26 年 4 月 ～ 現在	東北大学大学院 理学研究科 天文学専攻 博士課程	修士課程から引き続き、観測データを用いて銀河の研究を行った。特に撮像データを用いた研究を多く行い、様々な望遠鏡で観測された処理済みのデータを用いて、測光と誤差の評価を行い、これらの観測値から銀河の特性を研究した。加え

		<p>て東北大学の屋上望遠鏡と仙台市天文台のひとみ望遠鏡の撮像データ用データ処理解析ツールを、python を用いて作成した。また東北大学大学院の院生で行われる雑誌会の座長を博士2年次の1年間担当し、HTML で製作されたホームページの管理を行った。論文の作図については同様に python の matplotlib を用いた。趣味の範囲ではがあるが、python の urllib を使って ロト 6 の過去データをスクレイピングしたり、過去の競馬データについて主成分解析を、scikit-learn を用いて行なったりした。これらの作業で使用していた OS は Fedora と Mac である。</p>
--	--	--